

「ケルムスコット・プレス刊本」に関する 調査研究およびビデオ教材の制作

研究年度・期間：平成9年度～平成11年度

平成9年度

研究代表者：藪 亨
(教養課程 教授)

研究ディレクター：池田 鳩
(デザイン学科 教授)

共同研究者：山崎 冬至
(文芸学科 教授)
田中 敏雄
(教養課程 教授)
福本 繁樹
(工芸学科 助教授)
山形 政昭
(建築学科 助教授)
田村 昭彦
(デザイン学科 助教授)
木村 和実
(文芸学科 講師)
田之頭一知
(大学院 助手)

平成10年度

研究代表者：藪 亨
(教養課程 教授)

研究ディレクター：池田 鳩
(デザイン学科 教授)

共同研究者：山崎 冬至
(文芸学科 教授)
田中 敏雄
(教養課程 教授)
福本 繁樹
(工芸学科 教授)
山形 政昭
(建築学科 助教授)
田村 昭彦
(デザイン学科 教授)
木村 和実
(文芸学科 講師)
豊原 正智
(芸術計画学科 教授)
大橋 勝
(芸術計画学科 講師)
近藤 正樹
(大学院 助手)

平成11年度

研究代表者：西脇 友一
(デザイン学科 教授)

研究ディレクター：池田 鳩
(デザイン学科 教授)

共同研究者：山崎 冬至
(文芸学科 教授)
藪 亨
(教養課程 教授)
田中 敏雄
(教養課程 教授)
福本 繁樹
(工芸学科 教授)
山形 政昭
(建築学科 教授)
田村 昭彦
(デザイン学科 教授)
木村 和実
(文芸学科 講師)
豊原 正智
(芸術計画学科 教授)
大橋 勝
(芸術計画学科 講師)
近藤 正樹
(大学院 助手)
木原 俊哉
(音楽教育学科 助教授)

研究経過の概要

ヴィクトリア朝時代に詩人、天資豊かな詩人、多芸多才な工芸家・デザイナー、熱心な社会運動家として知られたウィリアム・モリス (William Morris, 1834 - 96) は、最晩年になって印刷芸術の再興に立ち上がり、「ケルムスコット・プレス (Kelmscott Press, 1891 - 98)」を開設している。そして、この私家版印刷工房からは、総タイトル53点、66冊のケルムスコット・プレス刊本が相次いで出現している。これらのタイポグラフィーや装飾には、モリスが生涯を通じて書物芸術に注いだ愛着が見事に花開いており、文学的内容、紙、印刷、挿絵や装飾、製本や装丁が共に協力して生み出される総合芸術作品となっている。幸い本学図書館には、その

全 53 点が近年に収集され所蔵されることとなった。そこで、本研究は、本学のデザイン・工芸・美術・文芸の専門研究者が定期的集まり、これらについて調査研究し書誌を作成すると共に、多媒体利用によるビデオ教材を制作することを目的とする。本研究は、3 年間にわたっており、本年度はその 3 年次に当たり、本学図書館所蔵のケルムスコット・プレス刊本を、各共同研究者がそれぞれの専門的な見地から協力して調査研究を行った。さらに、本資料の書誌作成やデータベース化の作業を進めるとともに、写真やスライドなどの資料を作成した。また当研究に必要な基本的な図書資料について検討し、本学図書館に未所蔵のものについては収集し購入した。さらには本学図書館とともに大阪芸術大学図書館所蔵品展『ウィリアム・モリスとケルムスコット・プレス刊本』（会場：大阪芸術大学芸術情報センター・展示ホール、会期：1999 年 6 月 23 日から 30 日まで）の企画・開催とその図録（書誌一覧を含む）作成に当たるとともに、地中海学会大会（1999 年 6 月 26 日、於大阪芸術大学）において展示についての解説（講演者：藪 亨）を行なった。さらに、「ウィリアム・モリスとケルムスコット・プレス」に関するビデオ教材のシナリオを制作し、その撮影と編集を推進した。

研究成果について

大阪芸術大学図書館蔵「ケルムスコット・プレス刊本コレクション」は、モリスの私家版印刷工房が 8 年間の短い活動期間中に刊行した総タイトル 53 点 66 冊とその広告用パンフレット等を所蔵している。本コレクションにおいては、『フロワサール年代記』のヴェラム見本刷が未収集であるが、モリスと親しかった詩人や印刷職人に分与された手漉き紙見本刷が入っており、ケルムスコット・プレス刊本のほぼすべてが網羅されている。

本刊本の魅力のひとつは、しばしば木版画による挿絵が添えられていることである。挿絵は、他の装飾や文字と本質的に芸術的に結びつき、それは全体の一部としてデザインされるべきである。またそのデザインは翻刻の折りに用いられる材料や方法に適し、彫版家は原画を機械的に複製するのではなくて、共感しながらメディア変換を行うべきである。すなわち、挿絵のデザイナー、装飾のデザイナー、彫版家、刷り師、これらすべての人々は、思いやりがあり労を惜しまない芸術家であり、全員が芸術作品を産出するために調和的に協同すべきであるとモリスは考えたのである。こうした「美しい書物」への彼の信念が見事に結晶化されているのが『ジェフリー・チョーサー作品集』であり、クラフツマンシップに基づいて真正の素材から成る「小型の大聖堂」を構築しているといえる。

しかし本書とともに本コレクションにおいてひとときわ光彩を放っているのは、モリスの詩作品集『折ふしの詩』のヴェラム刷本である。このおもて表紙裏には蔵書票が貼られており、「ゴールデン活字」で「ハマスミス、ケルムスコット・ハウスのウィリアム・モリスの蔵書から」と記されている。しかもこの蔵書票と署名紙片のあいだにはシドニー・C・コッカレルの覚書が鉛筆で記されている。モリスの秘書であったコッカレルは、モリス蔵書の整理に携わっており、彼によってこれらは貼られたと推定することができる。

研究の反省

そもそもモリスが書物印刷へ進出したのは、美へのはっきりとした主張を有し、同時に読みやすい書物の出版を希望したからである。そのため3種類の活字がモリスによってデザインされている。しかし、装飾家を生業とするモリスは、書物を模様と色彩で適切に装飾しようと試みており、しばしば木版画による挿絵も添えられている。大阪芸術大学図書館蔵「ケルムスコット・プレス刊本コレクション」を通観していると、書物の造形に対する実に細やかなモリスの心配りを窺い知ることができる。モリスはケルムスコット・プレスにおいてタイポグラファーとして本文活字や縁飾りなどのデザインを手掛けるとともに、マスター・クラフツマンとして素材の選択や制作の質に目を光らせ、著者、编者、訳者としてもその多くを担当したのであり、しばしば自著を、自らデザインした活字と装飾で、自らの印刷工房で刷り上げる楽しみを満喫したのである。こうしたモリスの芸術活動の集大成ともいえるケルムスコット・プレスの世界を明らかにするには、調査研究に予想以上の時間を費やさねばならなかった。そのため、図書館所蔵品展『ウィリアム・モリスとケルムスコット・プレス刊本』の企画・開催と展覧会図録（書誌一覧を収録）の作成は実現を見たが、本刊本に関するビデオ教材の撮影とその編集が未完了であり今後ともこれの完成に努めたい。

大阪芸術大学 図書館所蔵品展

ウィリアム・モリスとケルムスコット・プレス刊本

THIS new edition of William Caxton's God-effroy of Boloynne, done after the first edition, was corrected for the press by H. Halliday Sparling, and printed by me, William Morris, at the Kelmscott Press, Upper Mall, Hammersmith, in the County of Middlesex, & finished on the 27th day of April, 1893.



Sold by William Morris, at the Kelmscott Press.

大阪芸術大学